

株主優待制度

当社は、株主の皆様の日頃のご支援とご要望にお応えするとともに、当社株式への投資魅力をさらに高めるため、株主優待制度を導入しております。

対象株主様

毎年3月31日の最終の株主名簿に記載された、1単元(100株)以上の株式を保有していただいている株主様を対象

発送時期

毎年6月開催の定時株主総会終了後、決議通知に同封して発送

当社株式保有期間が1年未満の株主様

当社株式保有期間が*1年以上継続保有の株主様

QUOカード

- ① **500円相当**の当社オリジナルQUOカードの贈呈



- ① **1,000円相当**の当社オリジナルQUOカードの贈呈



寄付

- ② 公益財団法人「緑の地球防衛基金」への寄付 (株主様1人あたり50円)
③ 認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」への寄付 (株主様1人あたり60円)

- ② 公益財団法人「緑の地球防衛基金」への寄付 (株主様1人あたり50円)
③ 認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」への寄付 (株主様1人あたり60円)

*1年以上継続保有とは、3月31日を基準日として同日最終の株主名簿に同一株主番号で、1年以上記録されている状態をいいます。なお、全株式を売却後、再度購入された場合や、貸株制度の利用等により、株主番号が変更になった場合は、継続保有とみなされませんのでご注意ください。

第115期 (2017年3月期) 寄付額

- 公益財団法人「緑の地球防衛基金」への寄付 (株主様1人あたり50円) ▶ 寄付額 736,950円
- 認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」への寄付 (株主様1人あたり60円) ▶ 寄付額 884,340円

ホームページのご案内



ニュースリリースやIR資料等の最新情報をご提供しています。

<http://www.rasaco.co.jp>

ラサ商事

検索

RASA REPORT

CORPORATION

株主・投資家の皆様へ | 第116期 上半期報告書 | 2017.4.1 ▶ 2017.9.30

海を越えて...



代表取締役社長 井村周一

ラサ商事の企業理念

世界に通用する一流技術商品と
有用な価値ある資源を国内外に
販売し、豊かな社会に貢献

◎ ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループは、前期(2017年3月期)より中期経営計画『Next Stage Rasa 2018 ～80周年への布石～』を始動し、当期は折り返しの2年目を迎えております。

当上半期において、収益の牽引役である産機・建機関連事業の堅調な推移に加え、他の事業も概ね計画線上、またはそれを上回る状況で推移しました。特に、資源・金属素材関連事業では利益改善が大幅に進みました。その結果、当上半期の連結業績は、特に利益面で当初予想を大幅に上回り、前年同期に対して増収増益を果たすことができました。

また、通期見通しにつきましても、各事業の好調を受けて、当初予想から上方修正を公表させていただきました。

こうした業績の順調な推移は、中期経営計画における取り組みである収益基盤と経営基盤の更なる強化が、着実に進められていることによるものと評価しております。

株主の皆様への利益還元につきましては、「配当性向25%前後」とする方針のもと、第2四半期末の配当金を当初予想より3円増配の15円(前年同期比では7.50円増配)とし、年間配当予想も上方修正し前期比6円増配の30円とさせていただきます。

株主の皆様には、引き続き当社グループの経営にご理解とご支援のほどお願い申し上げます。

2017年12月



中期経営計画の取り組みを着実に押し進めてまいります。



当上半期の連結業績は、当初予想を上回り、前年同期比増収増益となりましたね。

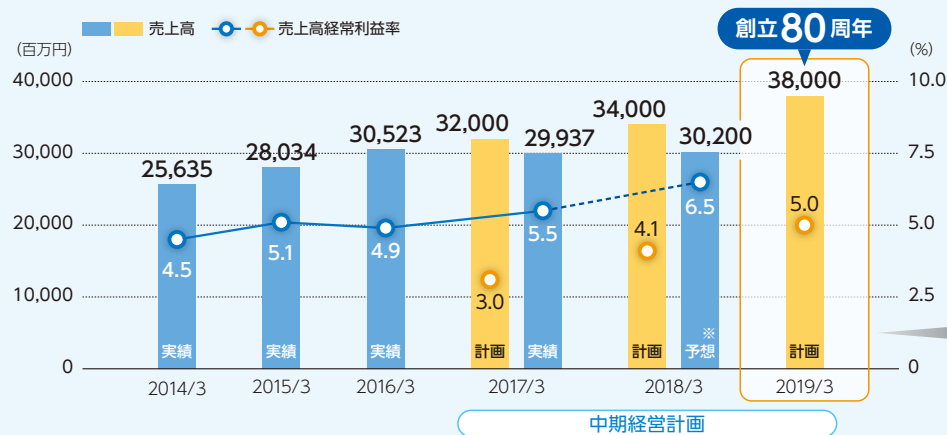
当上半期の連結業績は、当初は増収減益を予想しておりましたが、前年同期比で売上高が4.9%増、営業利益が同17.8%増、経常利益が同24.9%増、親会社株主に帰属する四半期純利益が同13.8%増と、増収増益となりました。

営業増益の最大の要因は、資源・金属素材関連事業における収益改善です。同事業では、中期経営計画に基づき、“相場変動に対応できる鉱産物在庫水準への見直し”を前期中に終えたことから、当期は利益を出せる体質へと改善して

おります。これに加えて、主力のジルコンサンドにおいて世界的に品薄感が高まるなど、総じて需給バランスは改善しました。この2つの理由から、同事業は黒字転換を果たしセグメント利益1億88百万円を計上することができました。

その他の事業の堅調な推移も、営業増益を下支えしております。産機・建機関連事業は、顧客企業の工場稼働率が高水準にあることを反映し、新規ポンプ類の販売やメンテナンス需要が計画を上回りました。環境設備関連事業では、前期好調の反動から当期伸び悩みを予想しておりましたが、当初予想を上回る推移となりました。

● 中期経営計画 目標と進捗



最終年度(2019年3月期)目標	
売上高	38,000百万円
営業利益	1,800百万円
経常利益	1,900百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	1,216百万円
ROE	8%以上
売上高経常利益率	5%以上
自己資本比率	50%以上

※2018/3の予想値は2017年9月15日に上方修正

**Q 連結子会社や持分法適用関連会社も、
確かな歩みを続けていますね。**

連結子会社3社の取り組みも、営業増益に貢献しております。旭テック(株)が担うプラント・設備工事関連事業では、前期にあった大口案件などが当期はないものの、受注はほぼ計画通りに推移し、新工場もフル稼働の状況にあるなど、好調を維持しております。イズミ(株)が担う化成品関連事業では、原油価格が落ち着き、特に電線向けの商品が好調に推移したことにより、前年同期比で増益となりました。ラサ・リアルエステート(株)が担う不動産賃貸関連事業では、グループ不動産の有効活用による収益貢献に取り組む中、一部不動産の売却など不動産ポートフォリオの改善を図りながら、着実に利益の積上げを図っております。

また、持分法適用関連会社である大平洋機工(株)(当社持

株比率45.5%)も、ポンプ関連・粉体関連ともに堅調に推移し、持分法による投資利益が当上半期も着実に積み上がり、経常増益に貢献しました。

Q 中期経営計画の進捗状況はいかがですか。

本中期経営計画では特に、グループの新たな価値の創造につなげることが可能な、事業間(グループ企業間)シナジーを複合的に推し進める取り組みを図っております。

たとえば、当社と旭テックとの間では、当社の取引先を旭テックに紹介する“顧客基盤の共有化”を進め、新規取引獲得につなげることができました。この動きを下半期以降さらに加速させていく方針です。また、ポンプの修繕など、環境設備関連事業におけるメンテナンス業務の一部を旭テックが請け負う新たな体制の構築にも着手しました。現在、当社

社員が旭テックに転籍し、技術・ノウハウを伝承する教育・研修を行っています。

また、当社と大平洋機工の間では、“製販一体の製品開発強化”を目指して、社員の相互派遣をはじめとした人的交流や当社の営業担当と大平洋機工の技術者が同伴での海外研修受講など、一体感のある活動を行っています。

こうした取り組みを積み重ねていくことで、グループ全体にシナジーが拡大し、業績拡大へとつながっていくものと確信しております。

Q 今後の中長期的な展望をお聞かせください。

中長期的な成長のための経営基盤の強化にも取り組んでおります。本中期経営計画の重要施策の一つである“新基幹システム”の導入については、2019年度中の稼働開始

を目的に準備を進めております。重要な経営資源である人材については、「働き方改革」の一環として、地域限定職の採用拡大や女性営業職の積極登用など多様な人材開発を推し進めてまいります。

経営体制につきましては、2017年6月、監査等委員会設置会社に移行し、より一層のコーポレート・ガバナンス強化を図ってまいります。

当社グループは、今後も持続的な成長を果たしていくために、各事業で重点施策を着実に推進すると同時に、M&Aについても積極的に検討しながら、新たな事業の創出を目指してまいります。

引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

INFO 01 監査等委員会設置会社へ移行

当社は、2017年6月28日開催の第115期定時株主総会における承認をもって、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行しました。

移行の目的

当社は、社外取締役が過半数で構成される監査等委員会を設置し、取締役の職務執行の監査等を担うとともに取締役会で議決権を有する監査等委員を取締役会の構成員とすることにより、取締役会の監督機能を強化し、効率的かつ迅速な職務執行と監査、監督体制の強化を図り、コーポレート・ガバナンス体制の一層の充実・強化を目的とするものです。

INFO 02 当期配当予想を上方修正

当社は、かねてより株主の皆様への長期的利益還元が重要な経営課題の一つと捉えており、株主還元の強化が株主価値の極大化に資するとの考えから、2017年3月期より安定配当を行うことを基本方針としつつ、配当性向を20%前後から25%前後へ引き上げております。

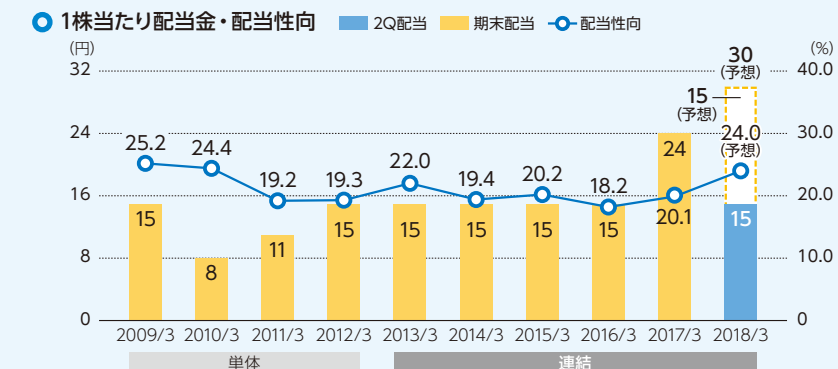
配当性向



当期の年間配当金(予想)



株主の皆様に対する当期の配当金につきましては、最近の業績動向等を踏まえ、年間配当を24円(中間12円、期末12円(予想))から30円(中間15円、期末15円(予想))に増配することといたしました。



脈々と受け継がれる知識や技術・ノウハウ、そしてラサ商事グループのDNA

ラサ商事は、スラリーポンプの分野で、国内トップシェアを争うポジションを構築しています。

スラリーポンプとは…

産業界には、固形物が混ざった液体や腐食性の高い液体（＝スラリー）を運ばなければならないような現場が多数存在しています。スラリーポンプは、こうした厳しい環境下で使用されるポンプであり、耐腐食性や耐摩耗性などに優れた特殊ポンプの総称です。

*写真撮影：太平洋機工株式会社本社工場にて

ラサ商事は、1959年以来、ワーマンポンプやヒドロスタルポンプ、プツマイスターポンプなど、海外の優れたスラリーポンプを日本の産業界のために発掘してきました。加えて、ポンプに関する総合的な知識・ノウハウを自ら身につけ、個別のお客様ニーズに合わせた独自改良から、設置工事、その後のメンテナンス業務まで総合的な技術ソリューションを提供できる体制を築き上げてきました。そうした知識・技術・ノウハウは、ベテラン社員から若手社員へと脈々と伝承され、ラサ商事のDNAは全社員へと息づいています。

現場中心の営業スタイルこそがラサ商事の強み

私は入社以来45年間ポンプ営業一筋です。高松営業所での12年間は、四国4県の営業からメンテナンス、クレーム対応まで全ての業務を1人でこなしていました。このときの経験が“現場中心の営業スタイル”の確立につながりました。作業服を着て現場へ伺い、ポンプに直に触れ、お客様の目線で問題を解決する姿勢こそが当社の強みであり、お客様からの信頼を獲得できた理由だと思っています。



ラサ商事株式会社
産業機械一部
安田 徹
1972年入社

今はこれまでに得た知識やノウハウを若手社員に伝えることに注力しています。私が若い頃は先輩の後ろ姿を見て技術を覚えるのが当たり前でしたが、今は時代が違います。簡単な修理なら営業担当者が解決できるよう、丁寧に指導することを心がけています。

早く知識・ノウハウを習得してお客様から信頼される営業に

入社1年半で、まだわからないことばかりですが、先輩方の熱心なご指導のおかげで、できることが少しずつ増え、毎日が新鮮です。先輩方からは技術面でフォローしていただくだけでなく、商談が成約に至った時の喜びや、営業面での悩み事についても、自分のことのように真摯に受け止めていただけるので「よし、頑張るぞ!」と前向きな気持ちになります。また、長年お取引のあるお客様は私より格段に知識が豊富で「うちの工場を見ていったらいいよ」と教えていただくことも度々です。



ラサ商事株式会社
産業機械一部
新谷 望
2016年入社

今は、お客様からのご注文に対応することが多いですが、先輩方から知識・ノウハウを習得して、お客様から信頼される存在になって、提案営業ができるようになりたいです。

主な製品紹介

ワーマンポンプ

スラリーポンプの代名詞的存在の製品です。耐摩耗性に優れ、腐食にも強く、液漏れもしにくい構造であることから、さまざまな液体およびスラリー輸送が可能です。



主な活用場所 金属、化学、石油、製紙などさまざまな産業

ヒドロスタルポンプ

より少ない動力で目的地点まで搬送できる高効率と無閉塞性を同時に達成するポンプ。濃度と粘性が高いスラリーに適しています。



主な活用場所 上下水道、雨水汚水ポンプ場、汚泥処理、食品、漁業関係、製紙、化学、金属などさまざまな産業

プツマイスターポンプ

輸送物の圧送を妨げるバルブ類がポンプホッパー内に無い独自設計により、スムーズで連続的な圧送が可能。吐出口径の50%程度の大きさの異物が含まれる場合でも問題なく圧送します。



主な活用場所 下水処理場、火力発電所、産業廃棄物処理場など

NSポンプ

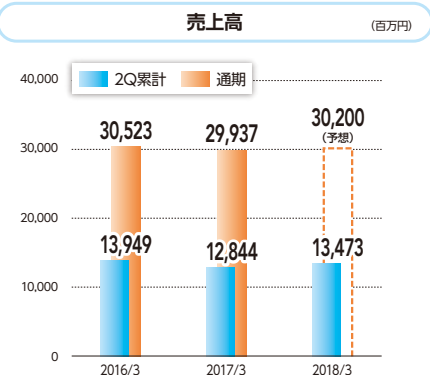
羽根車など特殊設計で、閉塞の心配なくスムーズに汚泥が通過。独自の耐摩耗材料の使用で長期間の使用が可能です。



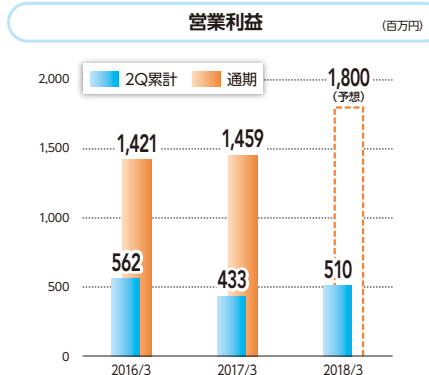
主な活用場所 下水処理場、し尿処理場、上水場、パルプ輸送など

注) 下のグラフの通期予想は、2017年10月30日公表の予想値です。

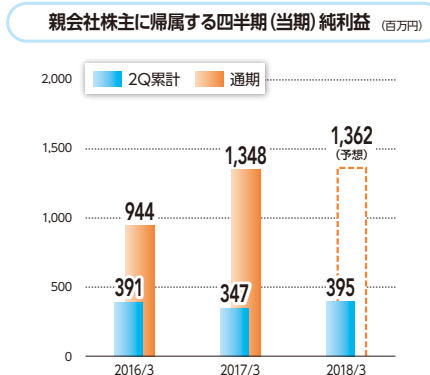
◎ 損益の状況 … 営業活動の積極的な展開と経営効率の向上に努めた結果、増収増益となりました。



資源・金属素材関連事業の改善に加え、プラント・設備工事関連事業なども堅調に推移したことにより、売上高は、前年同期比6億2,800万円(4.9%)増収の134億7,300万円となりました。

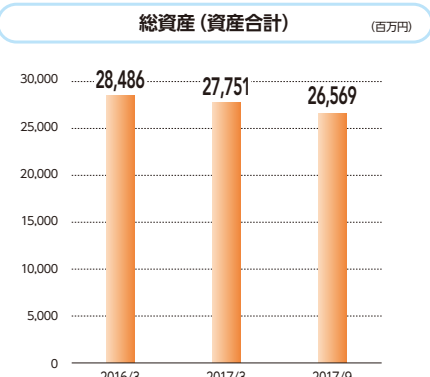


資源・金属素材関連事業の収益改善が大きく寄与し、営業利益は、前年同期比760万円(17.8%)増益の5億1,000万円となりました。また、当初予想も大幅に上回ることであります。

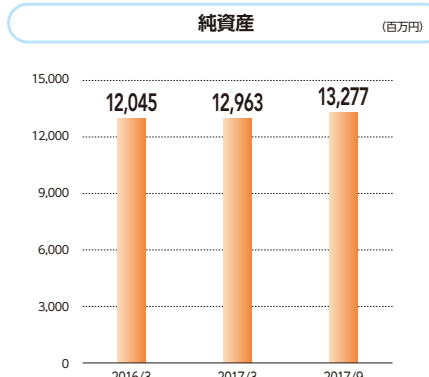


親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比470万円(13.8%)増益の3億9,500万円となりました。また、当初予想も大幅に上回ることであります。

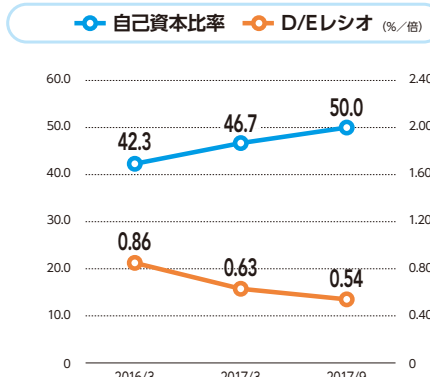
◎ 財政状態 … 有利子負債の減少、自己資本比率の向上など、財務体質の強化が更に進んでいます。



資産の部では固定資産が増加したものの、流動資産が減少し、負債の部では短期借入金が増加しました。これらにより、総資産は、前期末比11億8,100万円減少し265億6,900万円となりました。



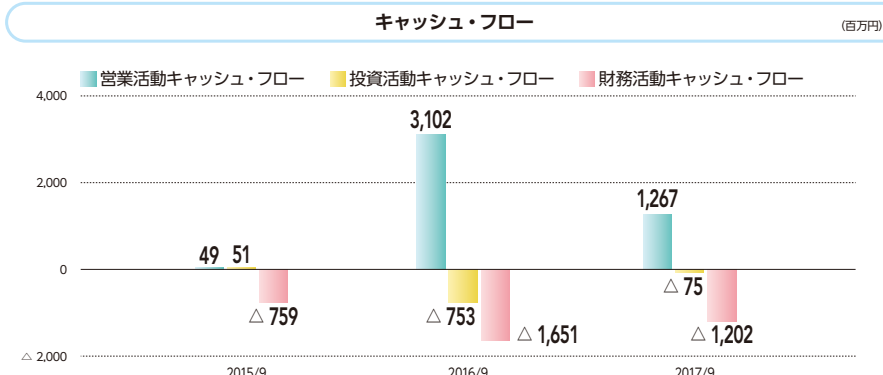
利益剰余金が2億9,000万円増加したことなどにより、純資産は、前期末比3億1,400万円増加し132億7,700万円となりました。



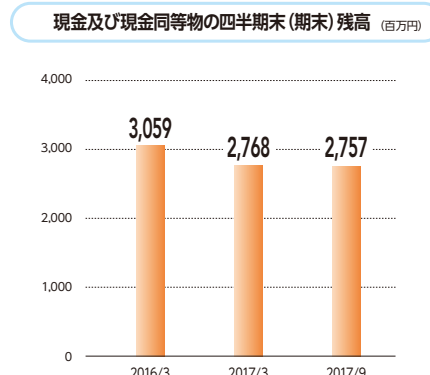
自己資本比率は、前期末比3.3ポイント向上し50.0%となりました。D/Eレシオは有利子負債の減少(10億1,300万円の減少)により0.09ポイント改善し0.54倍となりました。

※D/Eレシオ=有利子負債÷株主資本

◎ キャッシュ・フロー … 現金及び現金同等物の当四半期末残高は、前期末比横ばいで推移しております。

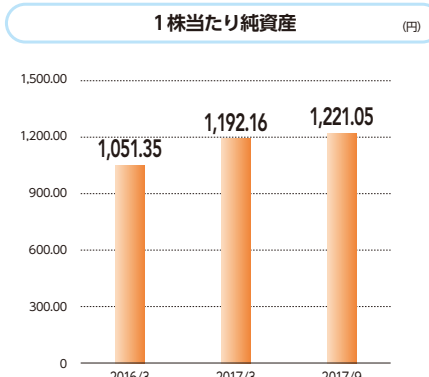


営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払、未払法人税等の減少等がありましたが、売上債権の減少、税金等調整前四半期純利益、たな卸資産の減少等から12億6,700万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、保険積立金の減少等から750万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金及び短期借入金の返済、配当金の支払額等により12億2,000万円の支出となりました。



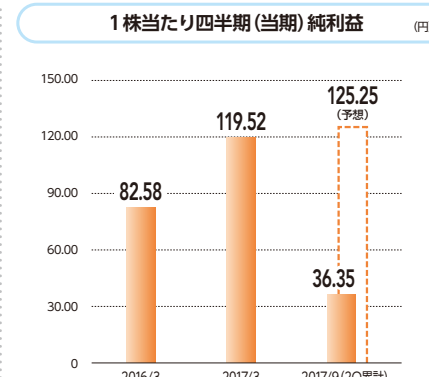
営業活動による資金が増加したものの、借入金など有利子負債の返済で財務活動による資金が減少したこと等により、当四半期末における現金及び現金同等物の残高は期首残高に比べ10億円減少の27億5,700万円となりました。

◎ 配当金など … 当期の年間配当は、最近の業績動向等を踏まえ、前期より6円増配の30円を予想しております。

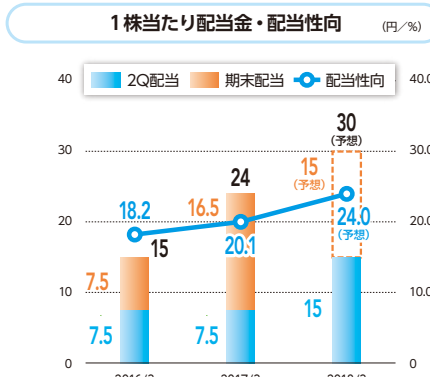


会社の資産価値を見る指標の一つである「1株当たり純資産」は前期末比28.89円増加し1,221.05円となりました。なお、当社株式の当四半期末終値(2017年9月29日)は1,051円であり、PBRは0.86倍という水準にあります。

※PBR=株価÷1株当たり純資産



投資価値を判断する指標の一つである「1株当たり当期純利益」は、通期予想ベースで前期末比5.73円増加し125.25円となる見込みです。



当期の配当金は、上方修正し、1株当たり中間で15円とさせていただきます。また、期末では15円、年間で前期比6円増配の30円を予想しております。

注1) 円グラフは売上高構成比(セグメント間の内部売上高を含む合計金額135億76百万円を分母として算出)

注2) 当期より、各事業の経営成績を適切に反映させるため、全社費用の配分方法を変更(前年同期の数値は新しい配分方法に組み替えて比較)

33.6% 資源・金属素材関連事業

売上高 45億67百万円
2018年3月期 2Q累計 (前年同期比3.6%増)

営業利益 1億88百万円
2018年3月期 2Q累計 (—)

金属シリコンは国内外の市場悪化から、数量・販売金額とも減少したものの、ジルコンサンドが品不足状態から価格が上昇傾向となり、同事業の売上高は前年同期比3.6%増収の45億67百万円、営業利益は1億88百万円となりました(前年同期は88百万円の損失)。

23.9% 産機・建機関連事業

売上高 32億46百万円
2018年3月期 2Q累計 (前年同期比13.8%増)

営業利益 1億16百万円
2018年3月期 2Q累計 (前年同期比17.6%減)

官庁向けポンプ及び建機商品が低迷したものの、民間企業向け主力ポンプ等の販売が安定的に推移したことから、同事業の売上高は前年同期比13.8%増収の32億46百万円、営業利益は同17.6%減益の1億16百万円となりました。

4.3% 環境設備関連事業

売上高 5億81百万円
2018年3月期 2Q累計 (前年同期比21.4%減)

営業利益 14百万円
2018年3月期 2Q累計 (前年同期比85.8%減)

環境商品及び水砕設備商品とも低調であったことから、同事業の売上高は前年同期比21.4%減収の5億81百万円、営業利益は同85.8%減益の14百万円となりました。

12.7% プラント・設備工事関連事業

売上高 17億21百万円
2018年3月期 2Q累計 (前年同期比12.9%増)

営業利益 33百万円
2018年3月期 2Q累計 (前年同期比78.5%減)

工期の短い工事が増加したことから、同事業の売上高は前年同期比12.9%増収の17億21百万円、営業利益は同78.5%減益の33百万円となりましたが、これは前期に利益率の高い工事が集中したことによるものです。

24.3% 化成品関連事業

売上高 32億95百万円
2018年3月期 2Q累計 (前年同期比2.0%増)

営業利益 74百万円
2018年3月期 2Q累計 (前年同期比34.0%増)

原油価格が落ち着き、特に電線向けの商品が好調に推移したことから、同事業の売上高は前年同期比2.0%増収の32億95百万円、営業利益は同34.0%増益の74百万円となりました。

1.2% 不動産賃貸関連事業

売上高 1億65百万円
2018年3月期 2Q累計 (前年同期比10.3%増)

営業利益 81百万円
2018年3月期 2Q累計 (前年同期比31.1%増)

賃貸物件の買換による収入増加から、同事業の売上高は前年同期比10.3%増収の1億65百万円、営業利益は同31.1%増益の81百万円となりました。

会社の概要

社名 ラサ商事株式会社
設立 1939(昭和14)年1月10日
資本金 18億54百万円
本社 〒103-0014
東京都中央区日本橋蛸殻町一丁目11番5号
RASA日本橋ビルディング
TEL (03) 3668-8231 FAX (03) 3669-1729
売上高 299億37百万円(2017年3月期)(連結)
従業員数 257名(連結)、185名(単体)
会計監査人 監査法人大手門会計事務所
許可 特定建設業許可
(機械器具設置工事業・電気工事業)
古物商許可

取締役

代表取締役社長 井村 周一 取締役 中西 俊雄
専務取締役 伊藤 信利 取締役 本間 丈大
常務取締役 大岡 隆 取締役 監査等委員 世良 孝司
取締役 小山 文男 取締役 監査等委員 柿原康一郎*
取締役 土屋 修 取締役 監査等委員 森脇 幸治*
取締役 窪田 義広

* 社外役員かつ独立役員であります。

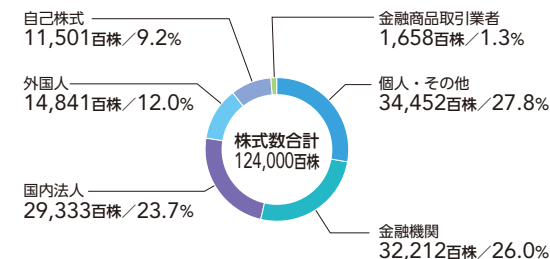
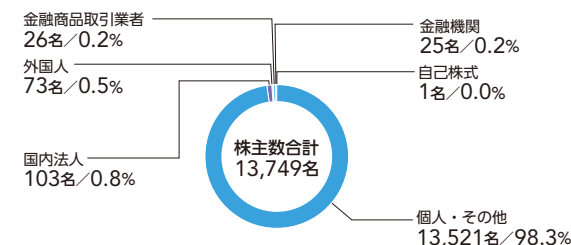
株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月下旬
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
単元株式数 100株
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎ 0120-782-031
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の
本店および全国各支店で行っております。
上場金融商品 東京証券取引所市場第一部
取引所 (証券コード：3023)

株式の状況

発行済株式の総数 12,400,000株
株主総数 13,749名

所有者別株式分布状況



大株主

(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
大太平洋金属株式会社	1,040,000	8.38%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	714,500	5.76%
MSIP CLIENT SECURITIES	670,000	5.40%
日本生命保険相互会社	496,000	4.00%
アトラスコプコ コンストラクション ツールズ エイビー	400,000	3.22%
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	370,000	2.98%
東京海上日動火災保険株式会社	360,000	2.90%
クニミネ工業株式会社	290,000	2.33%
大太平洋機工株式会社	207,000	1.66%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	201,200	1.62%

(注) 当社は自己株式を1,150,139株(9.27%)保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。